



山登如

## 2021年度 付中通信 14号

# 成長の速度

2022. 2.25 (金) 高水高等学校附属中学校長 宮本 剛

高校の卒業式が間近に迫ってきた。ユネスコスクールの活動の一環で、3年前、この度の卒業生が1年生の時、一緒に旅をしたことが何となつかしいことか。校長なので、生徒を引率することは、今はもうほとんどなくなっていますが、時々お鉢が回ってきます。今さら愚痴になるので言いたくはないのですが、校長になって最も寂しいことは、生徒との交流が急減してしまったことです。



生涯の仕事として教師を選んだだけは、私の場合、人間関係そのものを生きてみたかったからです。教師は利益とか損得とか、そういうものに振り回されない仕事だと今も思っていて、さらに人の成長そのものをテーマにできる仕事だと、途中からはっきりと思えるようになって、教師は実にやりがいのある、よい仕事だと自覚できるようになりました。

そんな私から生徒との直接交流の時間と機会を取り去ってしまったら、わかるでしょう？こんなにみじめなことではないのです。コロナ禍が押し寄せる直前の夏と秋、私は2度も比較的長い時間を高校1年生の彼らと過ごすことができました。夏は岡山県美作で開催されたユネスコスクール交流研修会への引率でした。秋は広島市で開催された広島ユネスコ協会主催の高校生国際理解セミナーへの引率でした。岡山は1泊2日、広島は日帰りでした。

研修会なので、何がしかの成長を求めて参加するわけですが、行きと帰りでもう彼らの顔つき、言葉が変化するのです。大人はこうはなりません。高校生の成長の速度と間近に接した時、それは本当に感動的な出来事としか言いようがありません。秘



言動に現れますが、私たち教師はその前に彼らの変化を感じ取りたいのです。

密の体験として大切にしまっておきたいくらいのもので、教師にとって生徒の成長を実感できる時こそ、至福の時間です。こんな機会に巡り合うために、私は教師になったのだと思います。

それにしても、やはりマスクで顔が覆われ、生徒の笑顔や真剣な顔、情熱的な顔をまともに見られなくなってしまったのは、ほんとうに残念です。成長の結果はやがてそのうち行動と